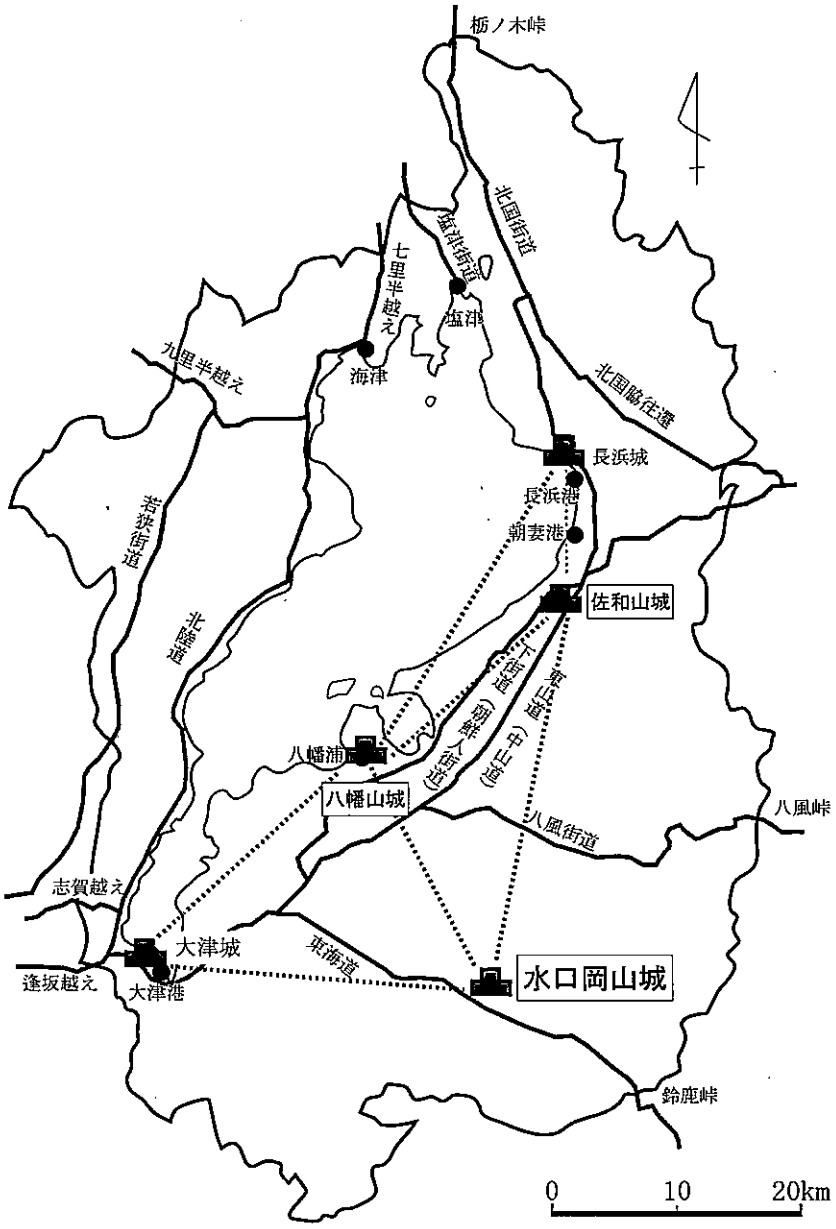
甲賀市市制施行10周年記念　あいこうか岡山城プロジェクト

水口岡山城跡　城郭歴史フォーラム

水口岡山城と豊臣政権・近江の山城

資料集



羽柴（豊臣）秀吉の城郭網

彦根市教育委員会編『近江の戦国・彦根の戦国』2012より転載、一部改変

平成26年11月16日（日）甲賀市碧水ホール

主催　甲賀市教育委員会

共催　甲賀市郷土史連絡協議会　一般社団法人水口岡山城の会

資料１

八幡山城跡

近江八幡市総合政策部文化観光課
中村　吉孝

１．城の歴史

・天正 13 年（1585 年）閏 8 月 22 日付けで近江 43 万石で八幡山城に転封。
　自身 20 万石　家臣　中村一氏・堀尾吉晴・山内一豊・一柳直末 23 万石
　　田中吉政は留守がちな秀次に代わり八幡山城に居城
・天正 13 年（1585 年）9 月 10 日付け書状　八幡山城の進捗状況を訪ねる秀吉の書状
・天正 14 年（1586 年）6 月「八幡山下町中掟書」
・天正 18 年(1590 年)7 月尾張・北伊勢転封
・文禄４年（1595 年）7 月高野山にて切腹。城は廃城

この城の名称は『蒲生郡誌』に「八幡山城」と紹介されており、『八幡町史』には「八幡城」との記述も見られるが、文中にて「八幡山城」とされている。その後の研究では「八幡城」、「近江八幡城」などの名称が見られるが、研究史を尊重し、「八幡山城」と称している

２．城の立地

近江八幡市は滋賀県の中央部、琵琶湖東岸に広がる。付近は内湖の発達により北東に大中の湖、西の湖など安土山を取り巻く内湖群、西に津田内湖・大房内湖が存在し、安土山と同じく内湖に囲まれた立地となっている。城の南側、城下町地域は東側が台地で西側が低湿地となっている。（図１周辺地形図参照）

３．城の構造

山頂に本丸を中心に放射状に郭を配し、南東、南西に延びる尾根上に小郭を配する。

また、この尾根に挟まれた谷部の山麓に自身の館と大手道両側に郭を配置する 2 段構造の構えとなっている。搦め手の遺構については顕著な遺構は確認されていない。（全体図参照）

４．調査成果

山頂主郭部（本丸・本丸から二の丸平面図参照）

点数は少ないが、現状金箔瓦の出土はない。軒丸瓦の大きさは安土城に近い。コビキ技法もＡ形式、石垣の状況、遺構の内容から京極高次期に積み直しの指摘あり。

山腹秀次館（山麓秀次館・家臣団居館群平面図、）

金箔瓦が出土。秀次馬印のオモダカ紋の飾り瓦出土。軒丸の直径は、15 センチ前後紋様は１種類。軒平瓦の紋様は５種類・瓦のコビキ技法はＢ形式（ほぼ１００％）

山腹秀次館・家臣団館群と想定される部分は中世天台系寺院（願成就寺と想定）を改修してひな壇を造成。

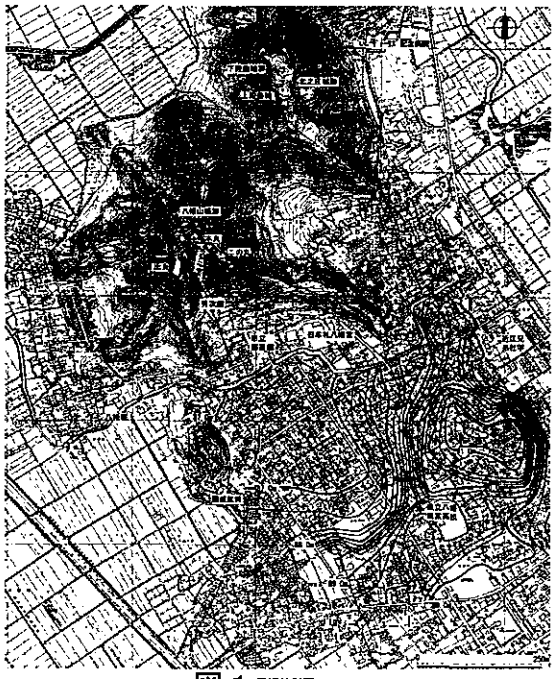
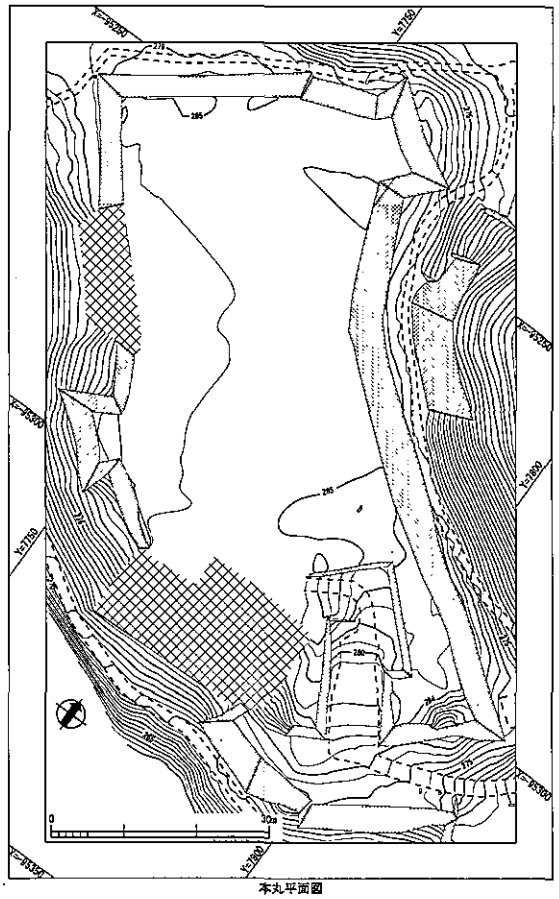


図１ 周辺地形図



本丸平面図

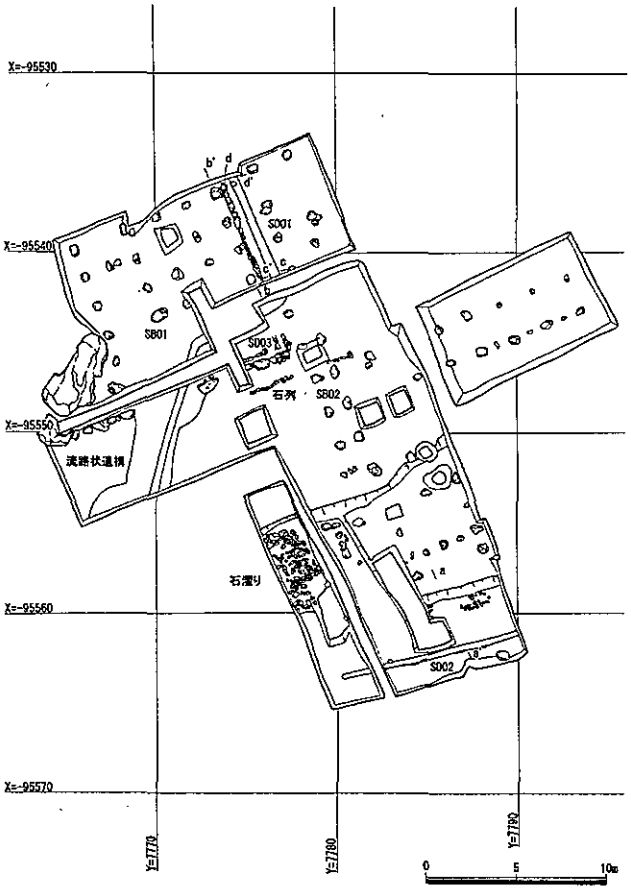
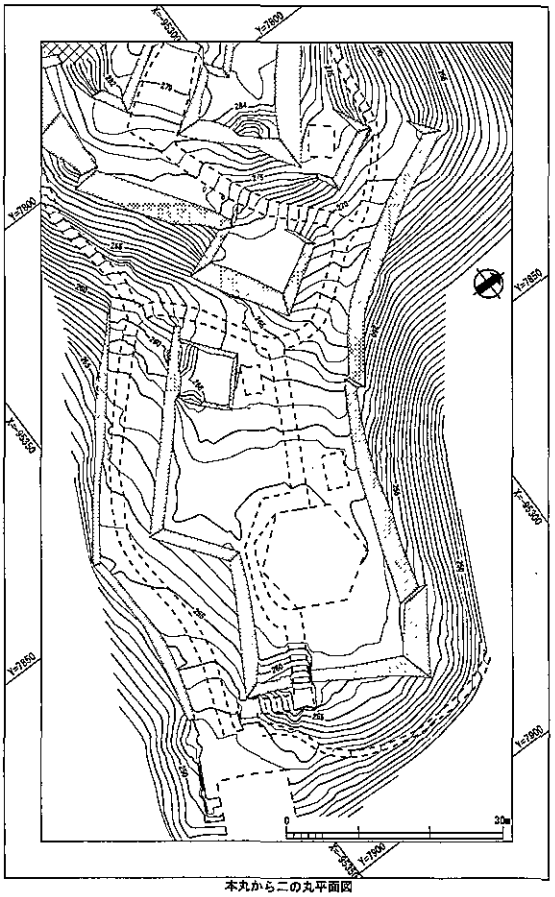


図２ 調査区平面図



本丸から二の丸平面図

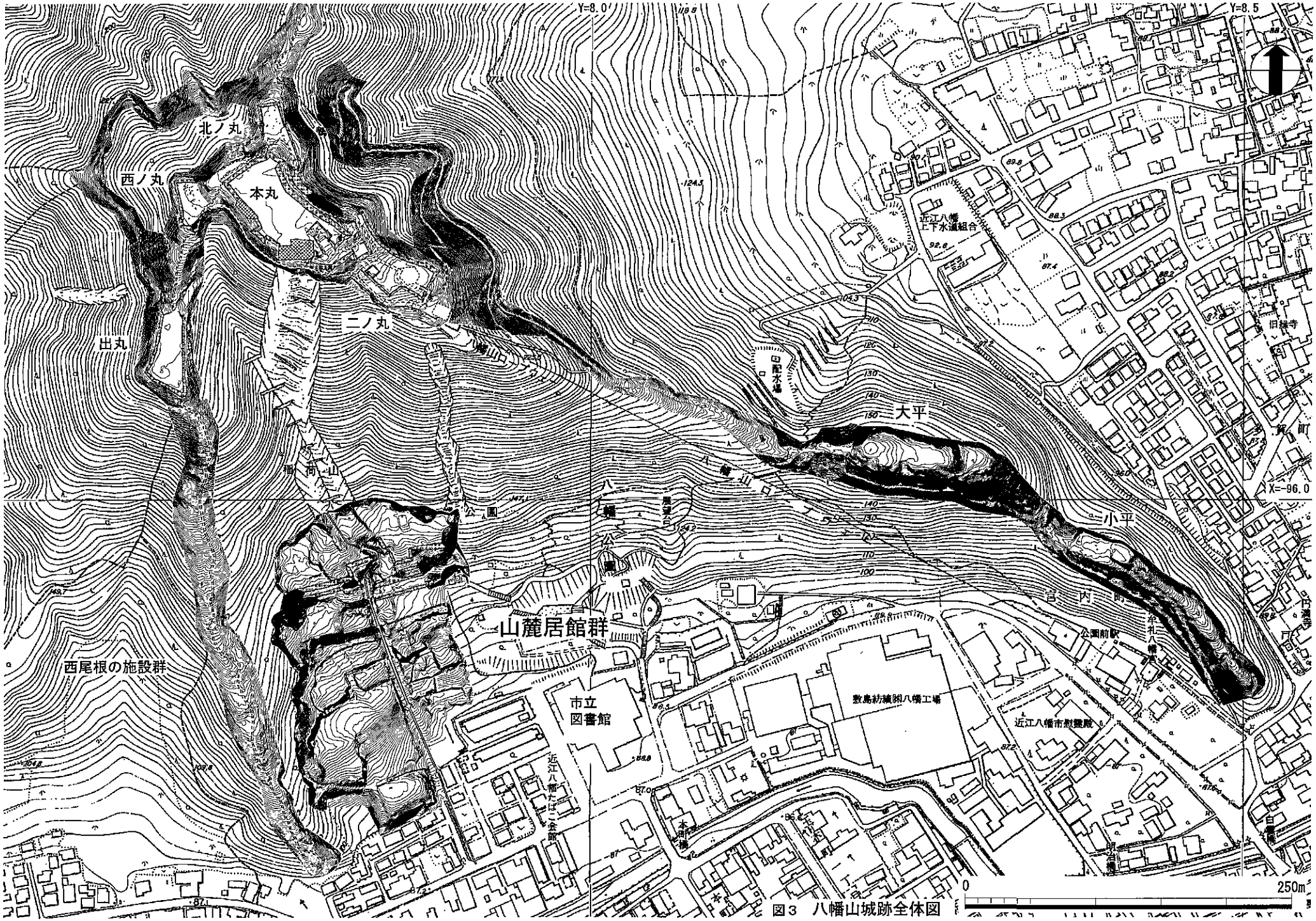

北ノ丸
西ノ丸
本丸
出丸
二ノ丸
稲荷山
八幡山
八幡公園
展望台
大平
小平
宮内町
山麓居館群
西尾根の施設群
市立
図書館
近江八幡たばこ会館
敷島紡績㈱八幡工場
近江八幡市総霊殿
公園前駅
近江八幡
上下水道組合
配水場
旧妙寺
Y=8.0
Y=8.5
X=-96.0
0
250m

図3　八幡山城跡全体図

山麓秀次館、家臣団居館群平面図

佐和山城跡について

林 昭男（彦根市教育委員会）

1. 佐和山城の立地

◎琵琶湖の東岸、彦根市域の北端部に伸びる佐和山丘陵の最高部である標高232.9mの佐和山を中心に城郭・城下町が広がっていた。
◎特別史跡彦根城跡の北東約2.0kmに位置する。
◎犬上郡と坂田郡の境目⇒湖北と湖南の境目
◎東山麓には東山道と北国街道、織田信長が整備した下街道の合流点が位置する【陸上交通】
◎西山麓には琵琶湖と繋がった松原内湖、湖上港が位置する【湖上交通】

2. 佐和山城の歴史

①築城に関しては判然としない
一説には鎌倉時代初期に佐々木定綱の六男六郎時綱の代に、佐和山付近に館を構えたのが始まりともされる。
②境目の城
北の京極・浅井氏、南の六角氏⇒湖北・湖南の対立
③織田の居城
丹羽長秀：元亀2年～天正10年（1582）
④大名の城（豊臣秀吉家臣）
堀秀政（16万石）：天正10年～天正13年（1585）
堀尾吉晴（4万石）：天正13年～天正18年（1590）
・八幡山城、水口岡山城の築城
石田三成（19万4千石）：天正19年～慶長5年（1600）
⇒天正19年（1591）4月 代官として佐和山城に入る。
文禄4年 （1595）8月 湖北4郡を治める佐和山城主となる。
・歴代佐和山城主で最大の石高
・文禄5年（1596）の「佐和山惣構御普請」（須藤通光書状）
⑤井伊家の暫定居城
井伊家（18万石）：慶長6年（1601）～慶長11年（1606）
・彦根城天守が完成し、佐和山城は廃城となる

3. 佐和山城の縄張りと構造

［縄張りと構造を考える材料］
・佐和山城の絵図：「沢山古城之絵図」など（同様の写し複数）
・彦根周辺の絵図：「彦根三根往古絵図」など（同様の写し複数）
・聞書：彦根藩は享保12年（1724）に聞き取りした報告書、『古城御山往昔咄聞集書』など（写本複数）
・地籍図：大津地方法務局彦根支所蔵旧公図（明治26年、字限図）
・分布調査（縄張り図）、測量調査、発掘調査などの成果

◎佐和山城は大きく分けて「山上」「山麓」「城下町」の３つのゾーンで構成される。
◎二元的構造⇒詰【山城：軍事的空間】と屋敷【山麓居館：生活空間】

①「山上」ゾーン

・最高所に本丸。本丸を中心に尾根伝いに曲輪が並ぶ。
・城道が発達している。
　⇒屈曲を繰り返す城道
・戦国期の山城を織豊系城郭【石垣・天守・瓦】に改修
　石垣⇒本丸周辺のみか、現在ほとんど残っていない
　　「一、石垣の石櫓門等マテ佐和山大津長濱安土ノ古城ヨリ来ル（『井伊年譜』）
　天守⇒本丸は地形の改変を受けている⇒天守台など不明
　　「てんしゅニ日（火）をかけ申候、」（結城秀康文書）
　　「本丸之天守茂只今より高ク御拝領之後御切落シ被遊候由、九間御切落とも云又七間とも申候実説相知レかたく」（『古城御山往昔咄聞集書』）
　瓦⇒本丸・二ノ丸・西ノ丸・（太鼓丸・法華丸）
　　コビキＢ手法（堀尾、石田、井伊氏段階）が主で、コビキＡ手法は少量
　　本丸南斜面より桐紋鬼瓦

②「山麓」ゾーン

◎内堀と土塁により閉じられた空間
◎土塁に石垣の痕跡も瓦の散布もない
◎東山麓の「殿町」地区と「奥ノ谷」地区、西山麓の「モチノ木谷」地区

[「殿町」地区]
・大手門
・ブロック状地割⇒侍屋敷
・登城路残存⇒「しらみ坂」（絵図）

[「奥ノ谷」地区]
・ブロック状地割り⇒侍屋敷
・発掘調査の結果、屋敷割りの堀（溝）や各屋敷地から山上の曲輪への登城路へつながる堀にかかる橋の痕跡を確認。「桐紋銅製紐金具」の出土

[「モチノ木谷」地区]
・ブロック状地割り⇒侍屋敷
・小字名⇒「御殿道」
・石田三成の居館跡（聞書より）
・登城路未確認。

③「城下町」ゾーン

[東側]
・東山道側【陸上交通重視】
・内堀と外堀に挟まれた空間
・「本町筋」の南北道路の両側に短冊型地割りと長方形街区⇒町家、町家地区は横町型
・発掘調査の結果、内堀や道路、区画溝、建物跡を検出。「百々町筋」では金属加工関連遺物が多く出土。また、遺構の切り合いが少ない。

[西側]
・琵琶湖・松原内湖側【湖上交通重視】
・松原村につながる百間橋
・絵図に「元馬喰町跡田」、「元魚屋町跡田」、「枡形門跡」、「元堀跡田」、「馬屋跡田」、「居館跡田」、「元侍屋敷田」⇒これまでの試掘では遺構は確認されず

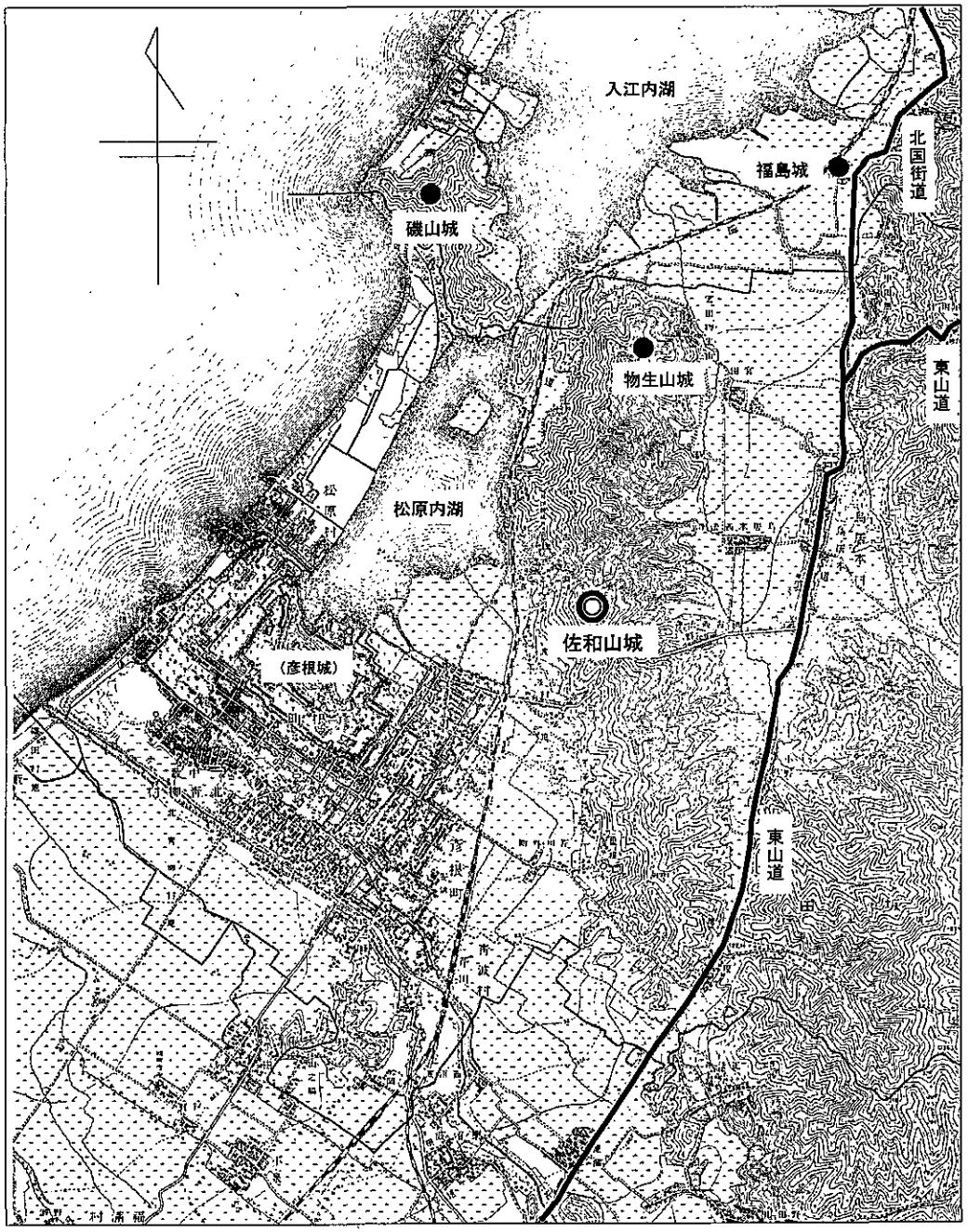


図1　佐和山城位置図

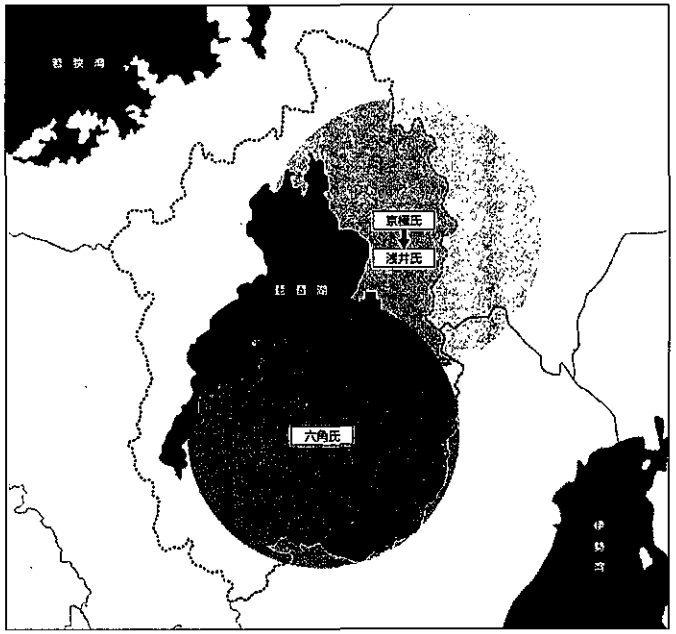


図2　湖北・湖南の対立

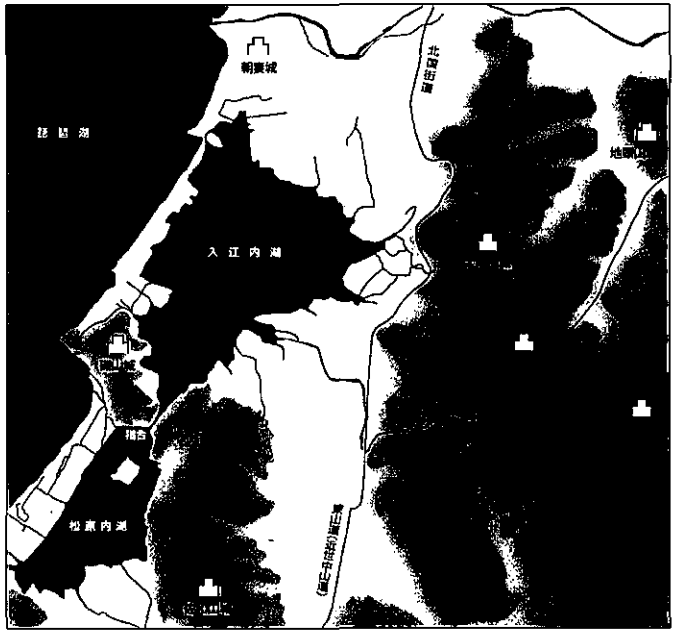


図3　佐和山城周辺の境目の城

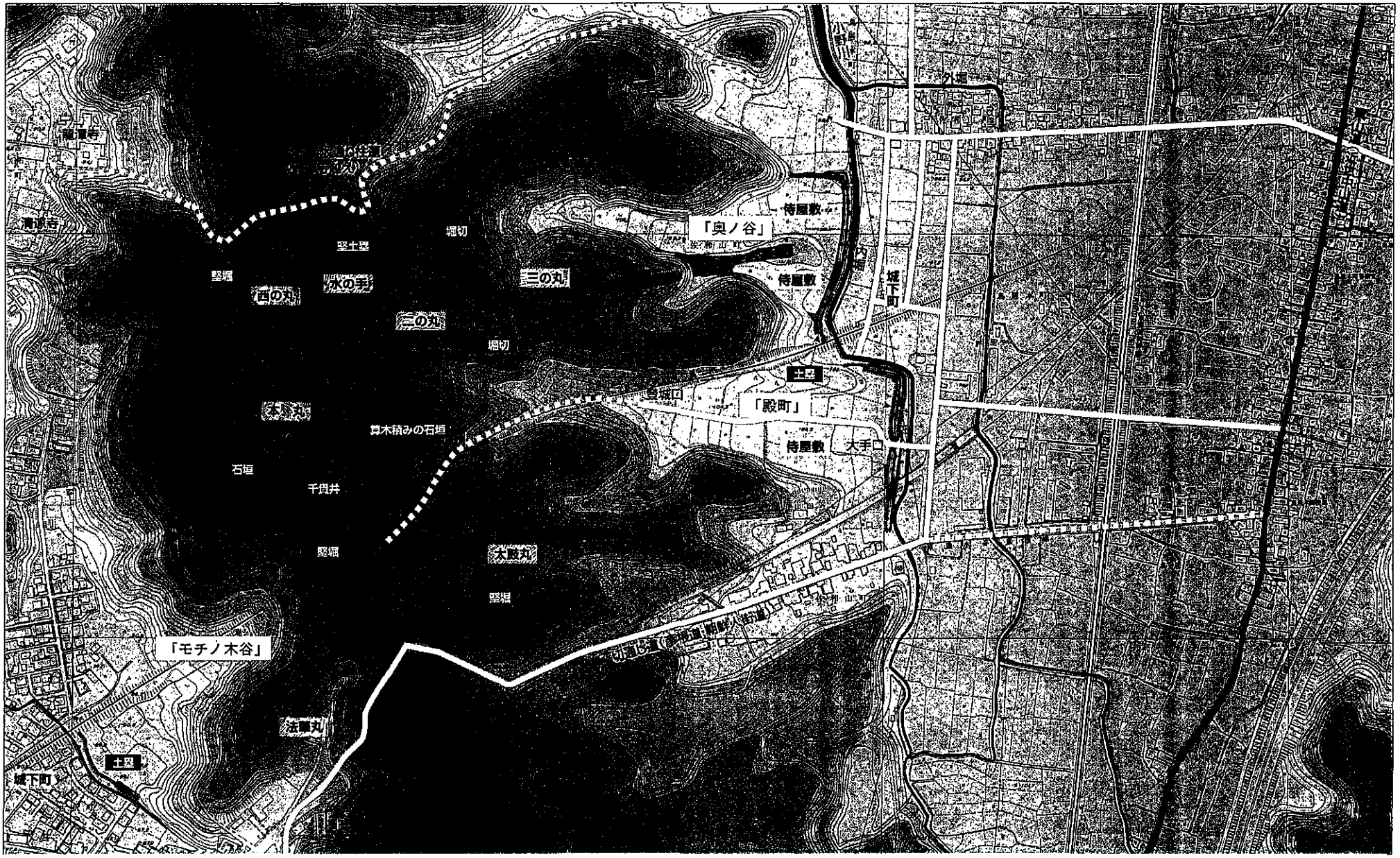


図4　佐和山城跡縄張図（中井均氏作成図と都市計画図を合成後加筆・着色）

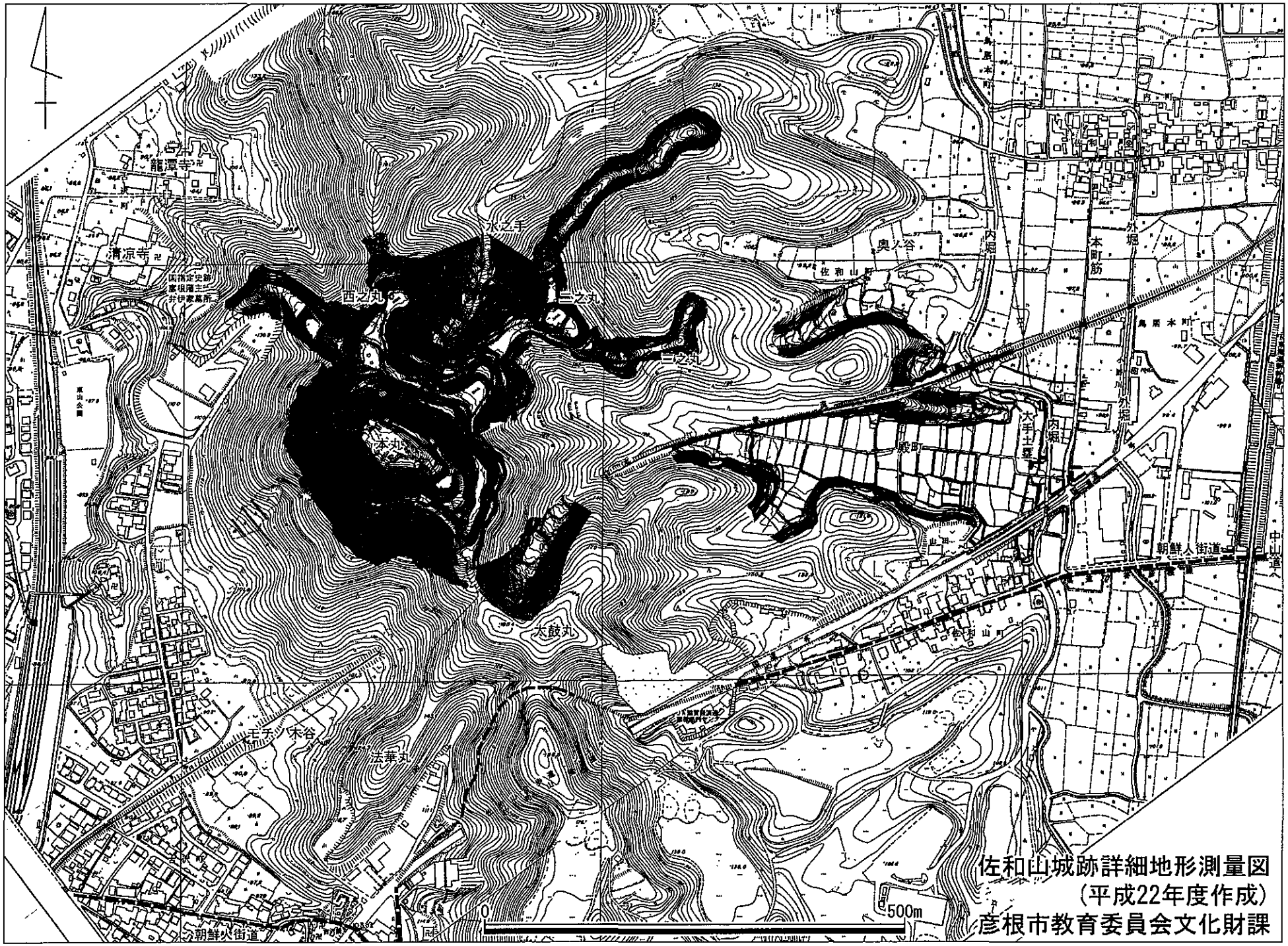


図５　佐和山城跡詳細地形測量図（平成 22 年度作成）

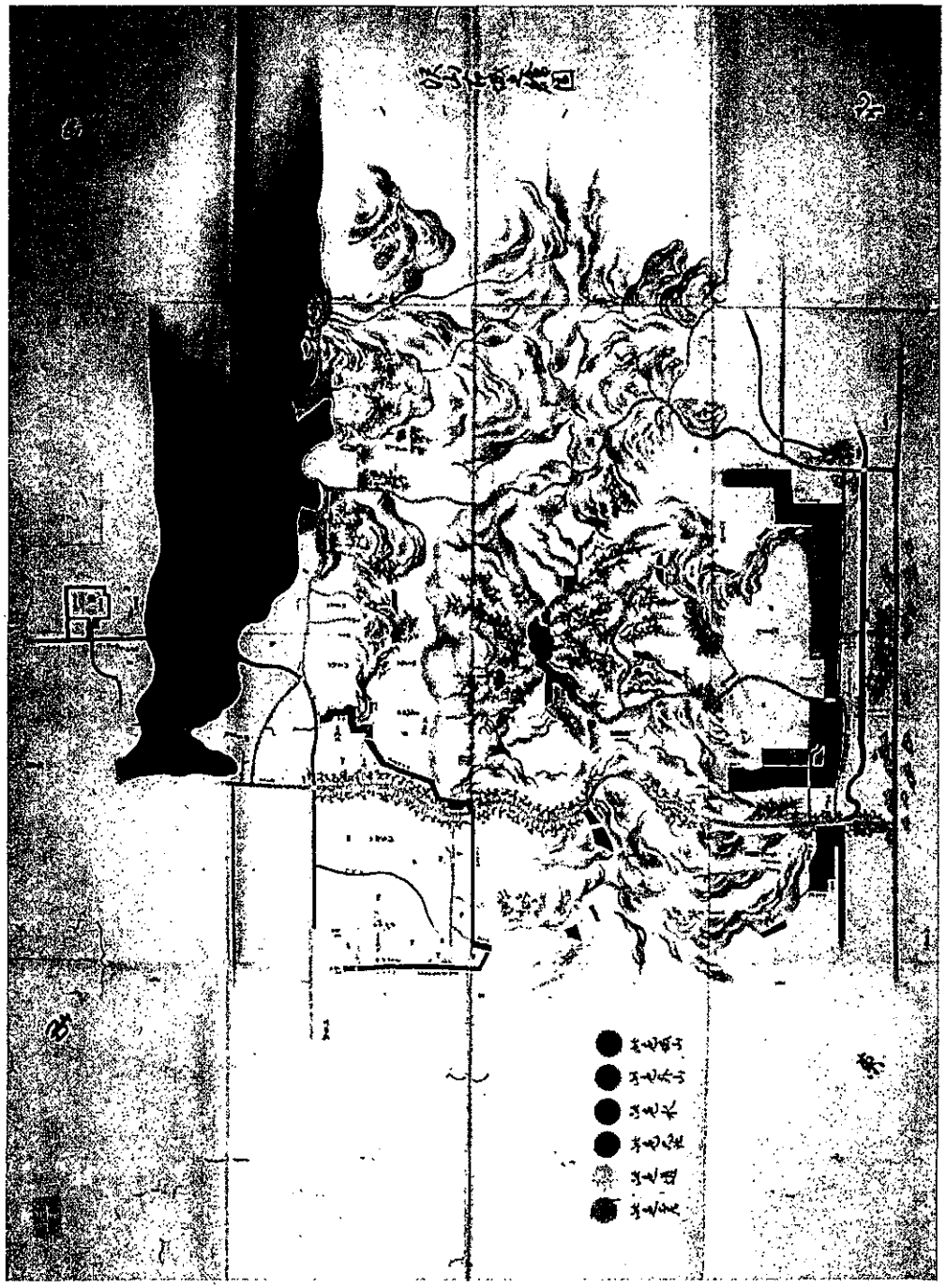


図6　沢山古城之絵図 作成年未詳（彦根城博物館所蔵）

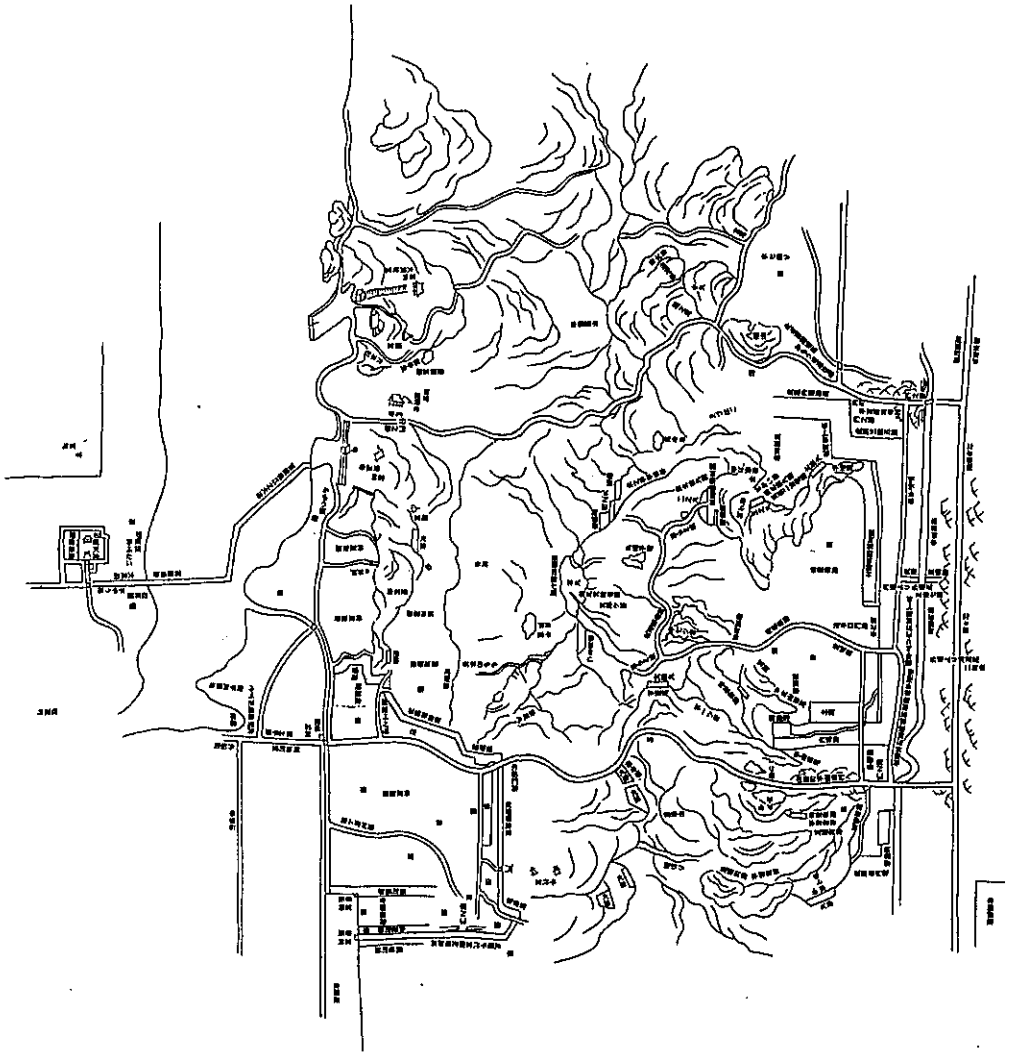


図7　沢山古城之絵図 トレース図

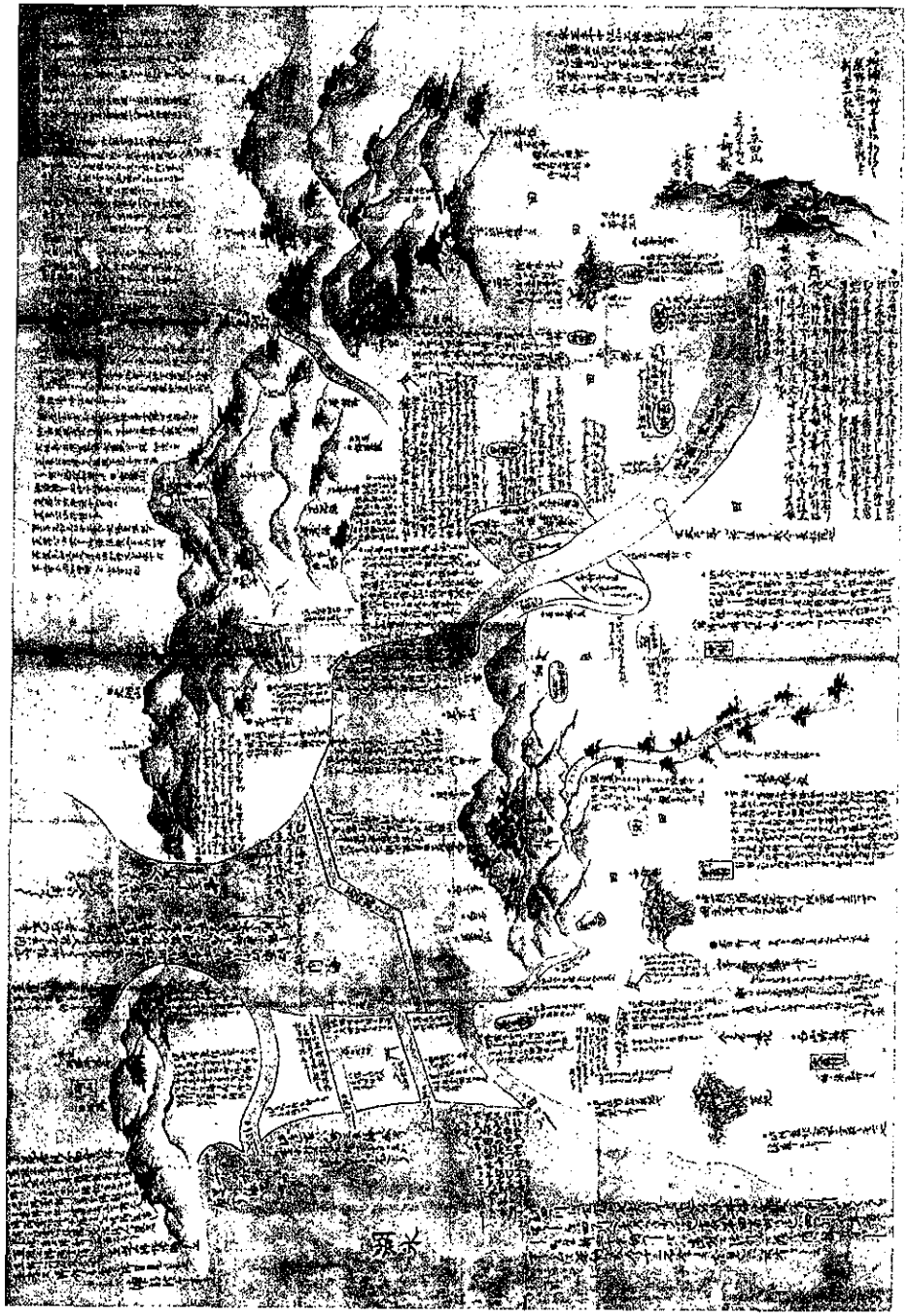


図8　彦根三根往古絵図 作成年未詳（彦根市立図書館所蔵）

元亀四年（一五七三）五月、足利義昭の再度の挙兵に対し、織田信長が佐和山城まで進出。大船の製造を督励する

一四〇　信長公記　巻六　『信長公記』

五月廿二日、佐和山へ御座を移され、多賀・山田山中の材木をとらせ、佐和山麓松原へ勢利川通り引下し、国中鍛冶・番匠・杣を召寄せ、御大工岡部又右衛門棟梁にて、舟の長さ三十間・横七間、櫓を百挺立てさせ、艫舳に矢蔵を上げ、丈夫に致すべきの旨仰聞かせられ、在佐和山なされ、油断なく夜を日に継仕候間、程なく、七月五日出来訖、事も生便敷大船上下耳目を驚かす、

年未詳二月十六日、石田三成が佐和山城普請を四郡の百姓及び長浜町職人に賦課する

一〇九　須藤通光書状（切紙）　下郷共済会所蔵文書

尚々先日之上使衆伏見へ罷上、其地御免許之義各理運を面々御立候とて、治部少（石田三成）もちと腹立之由候間、各一三人程御出候而御理尤候、拙子へ各無如在通柏彦右へ申渡し候、以上、

態申入候、今度佐和山惣構御普請ニ付て、四郡之百姓何（伊香・浅井・坂田・犬上）も普請を被申付候、然者長浜町之内ニも少成共物を作候衆へハ今度の御普請可申付之由堅三成も被仰下候、御免許之儀三成も淵底御存知之事ニ候へ共、今度之普請者少之間之事ニ而いつれも雇可申との御事候、柏原方申分も御入候間御大儀候共、御宿老衆之内一三人程御越て様子御談合尤候、為其態と申候、恐々謹言、

須権右
通光（花押）

二月十六日

長浜町
御宿老中
御宿所

（彦根市史編纂委員会 2001年『新修彦根市史　第5巻　史料編 古代・中世』より）

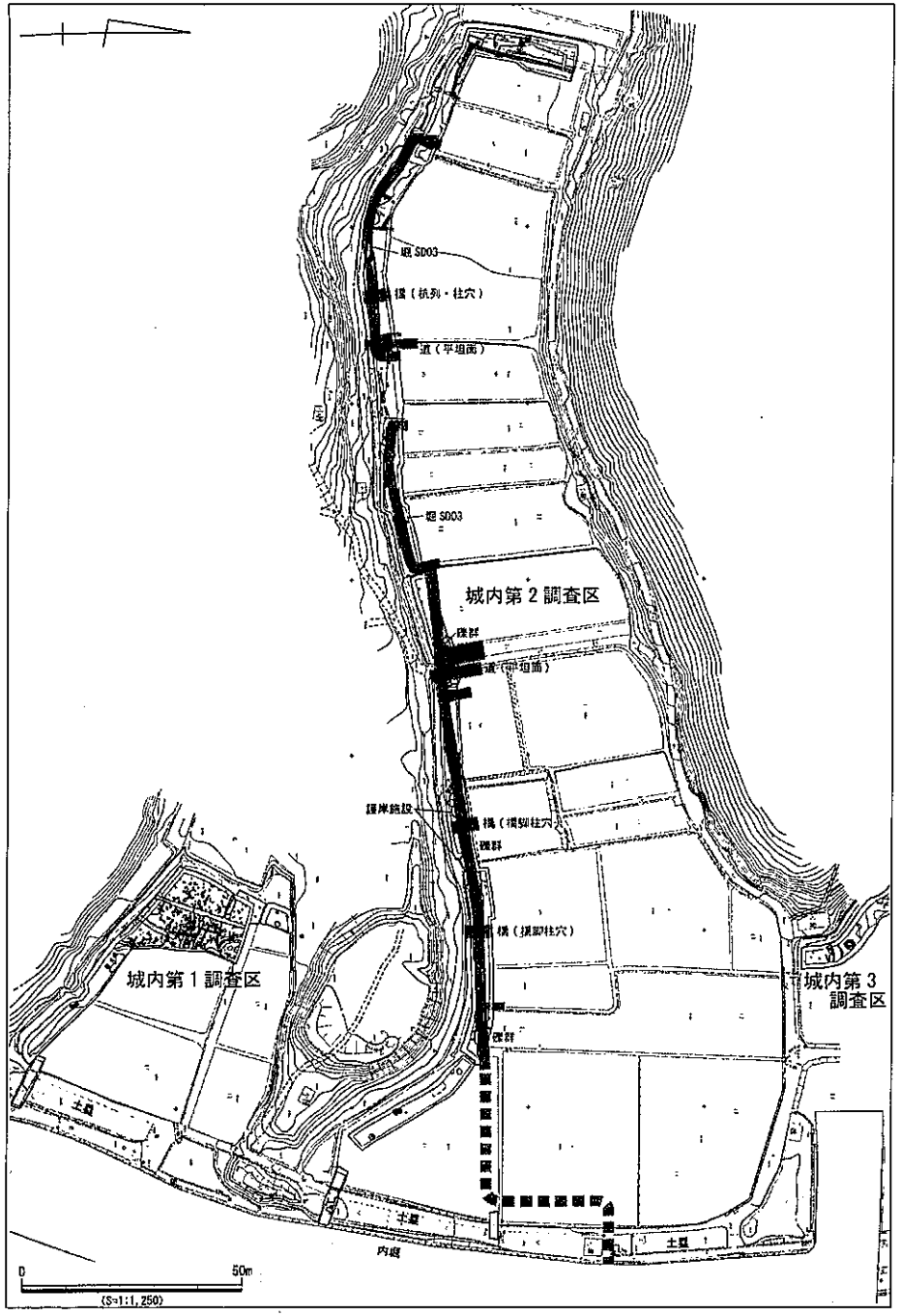


図９　「奥ノ谷」地区発掘調査 模式図
（滋賀県教育委員会 2013年『佐和山城跡』より）

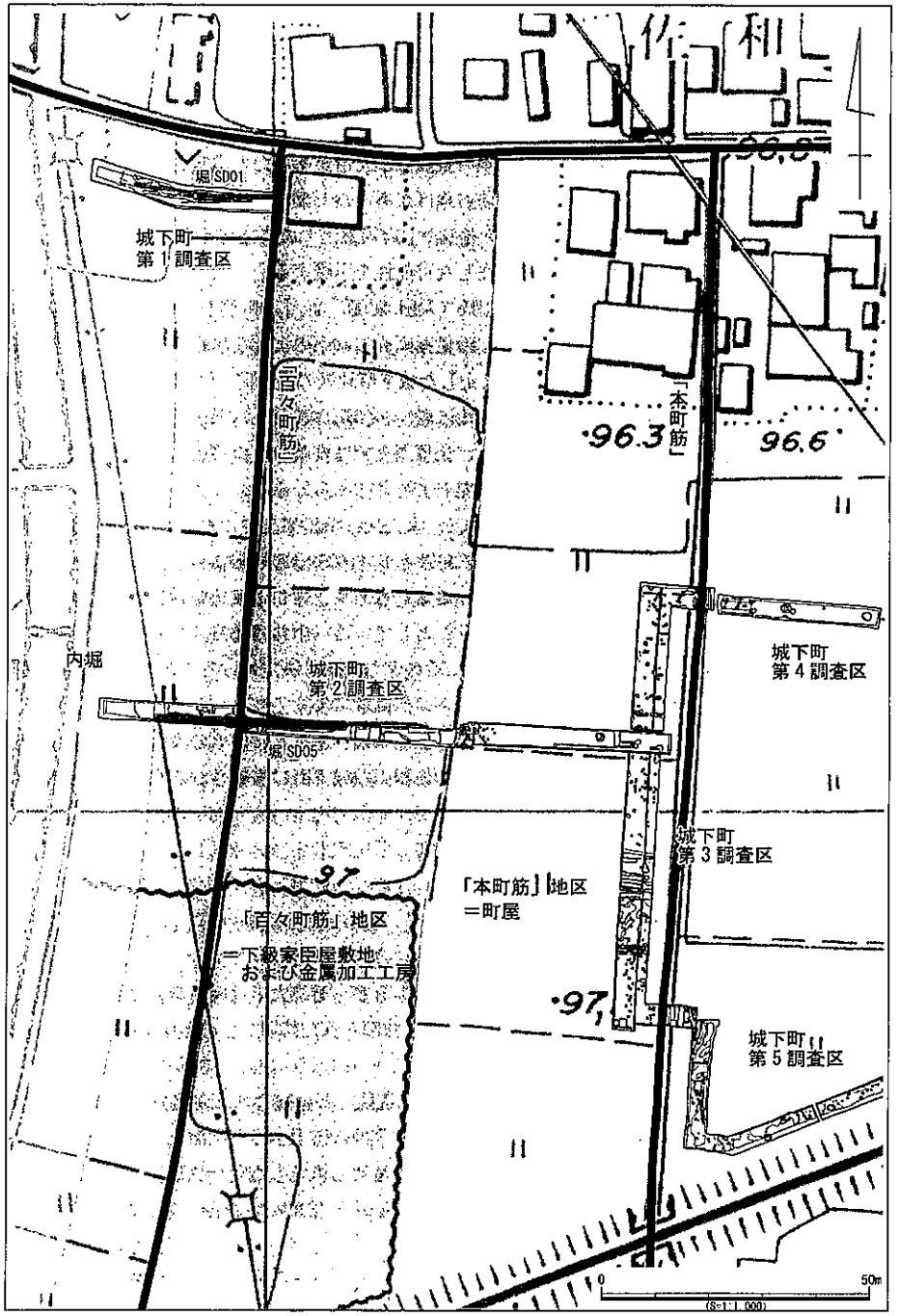


図 10　城下町発掘調査 模式図
（滋賀県教育委員会 2013年『佐和山城跡』より）

水口岡山城跡

～東海道を抑える豊臣政権の拠点城郭～

甲賀市教育委員会事務局
歴史文化財課　小谷徳彦

1．水口岡山城の概要（年表は表1）

①築城年代　天正13年(1585年)

②築城目的　甲賀郡の直接支配と東国への牽制
　　築城の直前に甲賀衆を改易処分　天正13年4月

③立　　地　水口平野の喉元　独立丘陵「古城山」　⇒　360°の眺望
　　東海道・野洲川が山麓を通る　⇒　東海道を中心に城下町
　　東に鈴鹿峠を望む　⇒　東国を見据えた拠点

④築城資材　石垣石材　三雲城から（『水口藩士某覚書』）　⇒　三雲城に石垣残る
　　水口岡山城内に花崗岩の岩盤露出箇所　石切場か？
　　菫青石ホルンフェルス　古城山で産出
　　用材・瓦　矢川寺から（『矢川雑記』）　⇒　矢川寺遺跡の瓦と同笵瓦あり
　　移築　大溝城の殿主（『西川家文書』）　⇒　同笵瓦が出土
　　大岡寺の移転　築城時に山下へ　資材転用か？

④歴代城主

初代　中村一氏　岸和田城から移封　水口6万石を拝領
　　水口へ入ったのは天正13年5月（『貝塚御座所日記』）
　　天正19年(1590年)まで城主を務める　その後、駿府城へ
　　豊臣秀次（秀吉の甥）の付家老のひとり　後に豊臣政権の三中老のひとり

二代　増田長盛　豊臣政権の五奉行のひとり
　　文禄4年(1595年)まで城主を務める　その後、大和郡山城へ

三代　長束正家　豊臣政権の五奉行のひとり
　　慶長5年(1600年)の関ヶ原の戦いで西軍に
　　戦いの後、水口まで敗走するも城を明け渡して自刃

⑤廃城後

関ヶ原の戦いの後に廃城　⇒　破城（城を壊す）
江戸時代初期　水口は徳川幕府の直轄地　水口岡山城跡も幕府の直轄
天和2年(1682年)　水口藩成立　以後、水口岡山城跡は御用林となる

2．発掘調査を通じて判明してきた水口岡山城の姿

①これまでの調査

第1次調査（平成24年度）　大手道周辺および伝西の丸

枡形虎口の構造確認　石垣で囲まれた空間　床面は石敷き

大手道沿いに重点的に石垣を使用

伝西の丸側は石垣を構築せず、切岸による築城

第2次調査（平成25年度）　伝本丸南側斜面

主郭部南側は2段構造

上段：高石垣（8～9m）　中段部から主郭部曲輪面まで立ち上がる

下段：腰巻石垣（2m程度）　裾部のみ　その上部は切岸（法面）

第3次調査（平成26年度）　二つの天守推定地

構造の違う推定天守台

東側：北東部を付櫓台状に突出させた構造

西側：東側に張り出す階段を持つ構造　五輪塔などの転用材を使用

異なる瓦を使用した二つの重層建造物　天守級建物が併存

東側：巴文軒丸瓦と桔梗唐草文軒平瓦＋大溝城同笵軒瓦

西側：宝珠唐草文軒平瓦・菊花唐草文軒平瓦など寺院系瓦も混在

②発掘調査成果からみた城の構造

伝本丸　2段構造による構築　上段：高石垣　下段：腰巻石垣

東西両端に重層建造物　古絵図の表記と一致　構造と部材の使用に違い

大手道　石造りの枡形虎口　石垣＋石敷き

大手道沿いの曲輪　石垣で構成　⇒　曲輪配置から直線的な大手道と想定

伝西の丸付近　石垣なし　切岸による造成　⇒　主郭部との差異

3．まとめ

縄張り：東側斜面に小曲輪が多数　竪堀・竪土塁も多い

山上部の曲輪群も東向きに展開　伝本丸→伝二の丸→伝三の丸

⇒　東側を意識した縄張り＝対東国を意識

拠点城郭の様相：伝本丸の両端に天守級の重層建造物

山上部を囲う石垣

瓦葺建物の存在

⇒　織豊系城郭として威容を誇る

破城のあり方：南側の石垣は徹底的に崩す　発掘でも明らか

北側の石垣は一部残る　東側推定天守の石垣も北側が残る

⇒　城下町から見える側を意識的に壊す

豊臣政権の象徴の終焉を意図　→　水口城（碧水城）時代へ

表1　水口岡山城跡関係年表

年号		西暦	水口岡山城	秀吉の動きなど
天正	10	1582		本能寺の変　信長の死 山崎の戦い　明智光秀討伐 清洲会議
	11	1583		賤ヶ岳の戦い　柴田勝家を敗る 大阪城の築城開始
	12	1584		小牧・長久手の戦い
	13	1585	築城 初代城主　中村一氏 和泉岸和田城より移封	紀州攻め 四国平定 関白宣下
	14	1586		太政大臣　豊臣姓を賜る 聚楽第の着工 越中攻略
	15	1587		九州征伐　島津義久を敗る 西日本を手中に収める
	18	1590	中村一氏　駿河駿府城へ移封 増田長盛　入城	小田原攻め　北條氏敗る 天下統一
文禄	元	1592		朝鮮出兵　文禄の役 伏見城の築城開始
	4	1595	増田長盛　大和郡山城へ移封 長束正家　入城	
慶長	2	1597		朝鮮出兵　慶長の役
	3	1598		秀吉の死
	5	1600	長束正家　敗走・籠城 池田長吉に攻められて開城 その後、廃城となる	関ヶ原の戦い

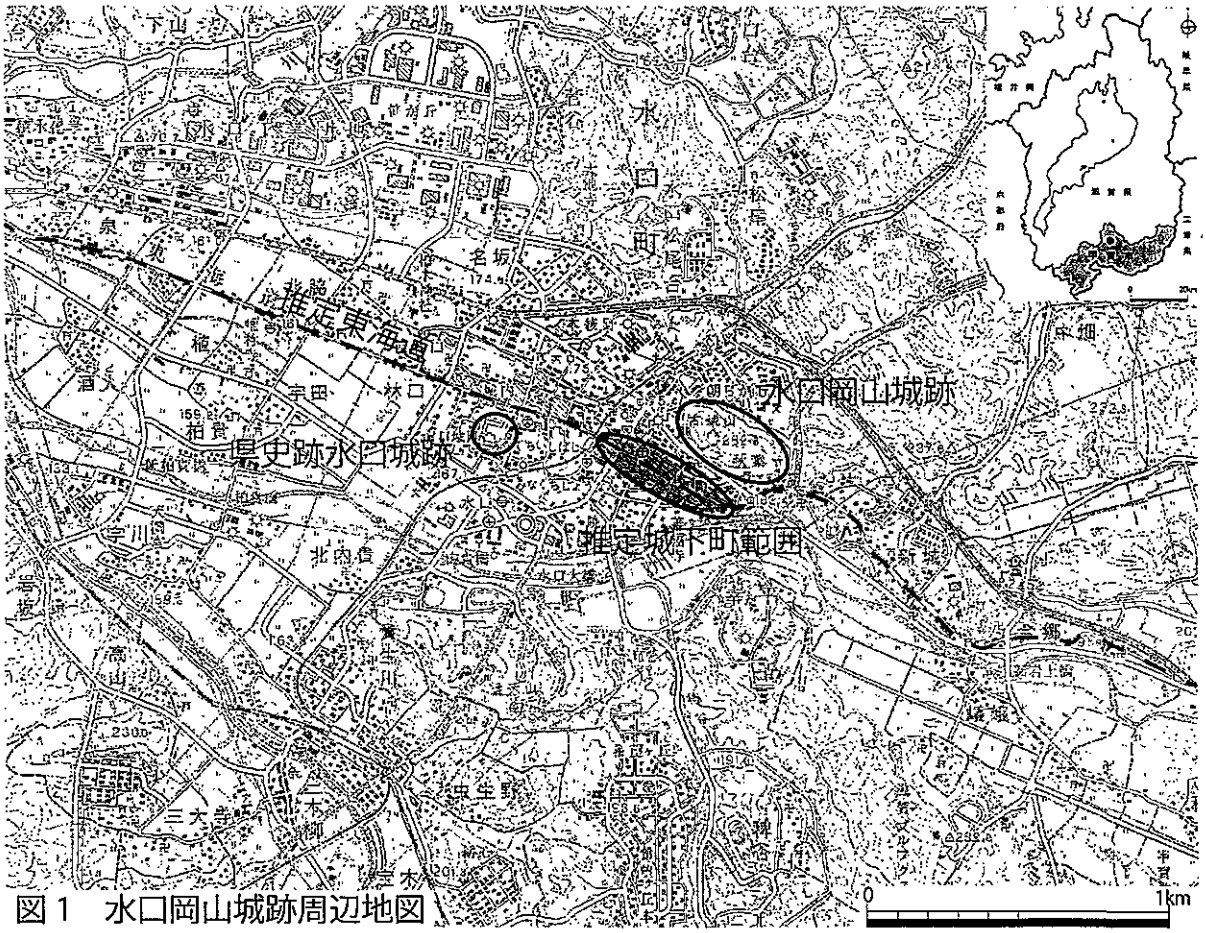


図1　水口岡山城跡周辺地図

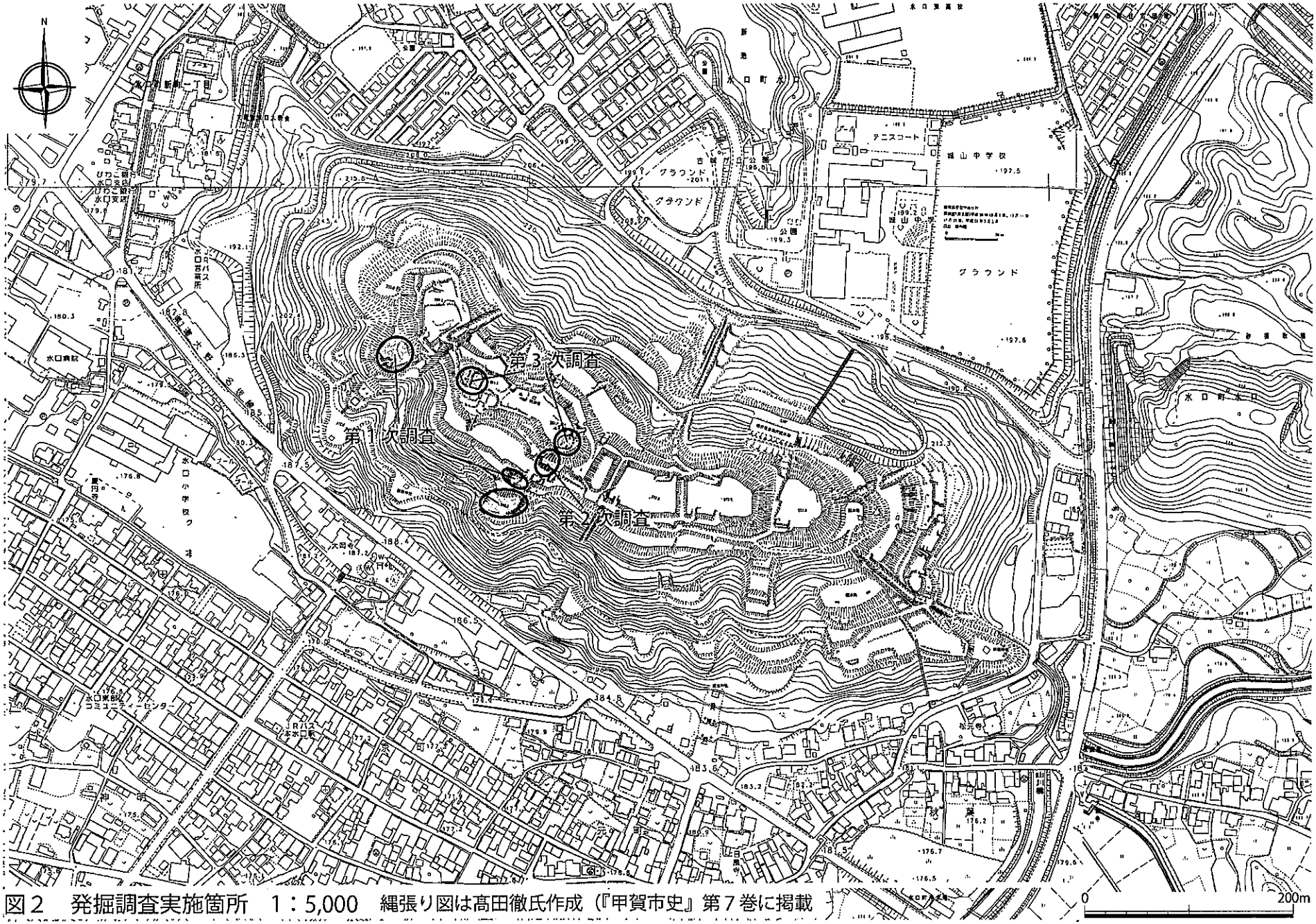


図２　発掘調査実施箇所　１：5,000　縄張り図は高田徹氏作成（『甲賀市史』第７巻に掲載

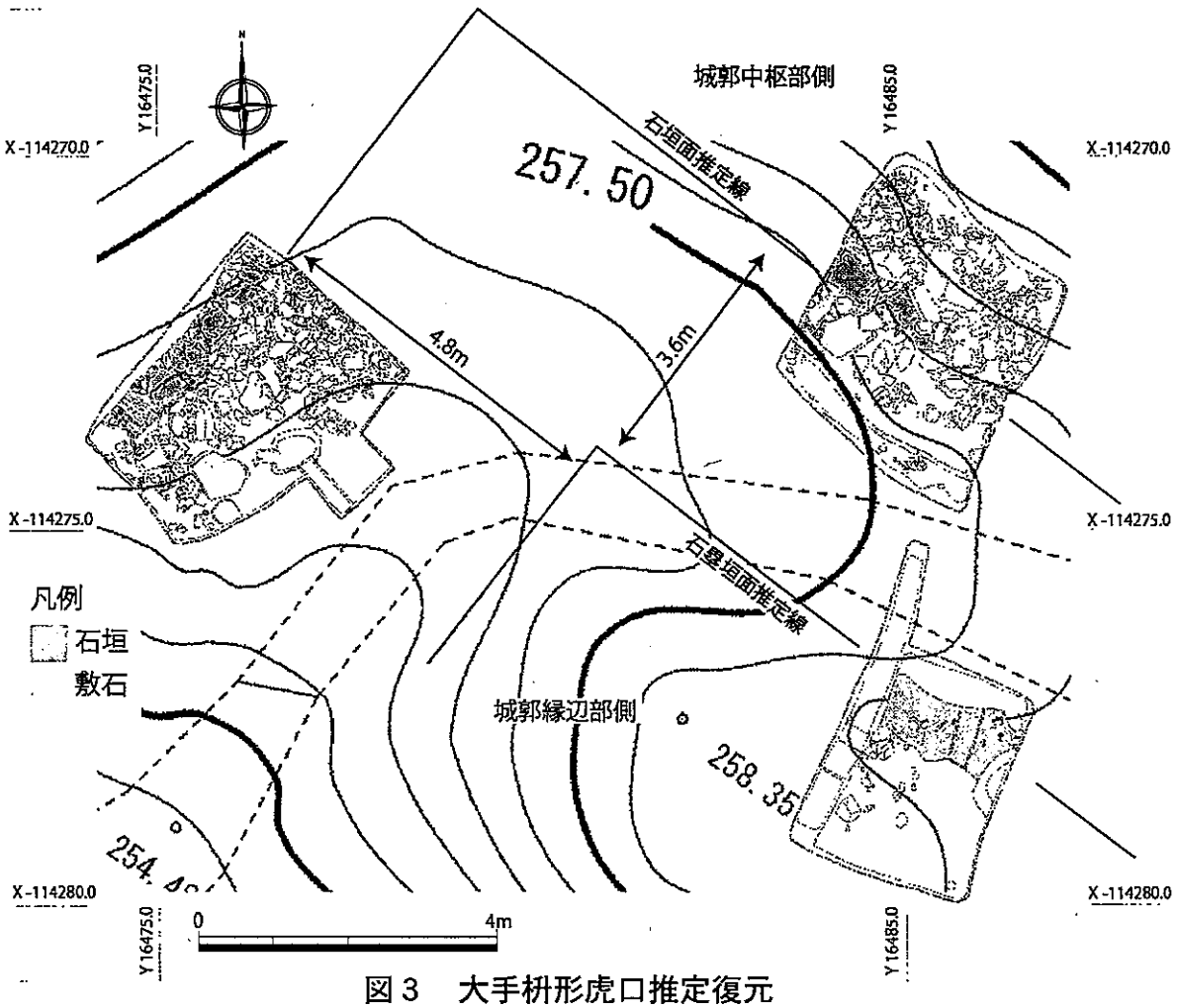


図３　大手枡形虎口推定復元

図４　破城のイメージ

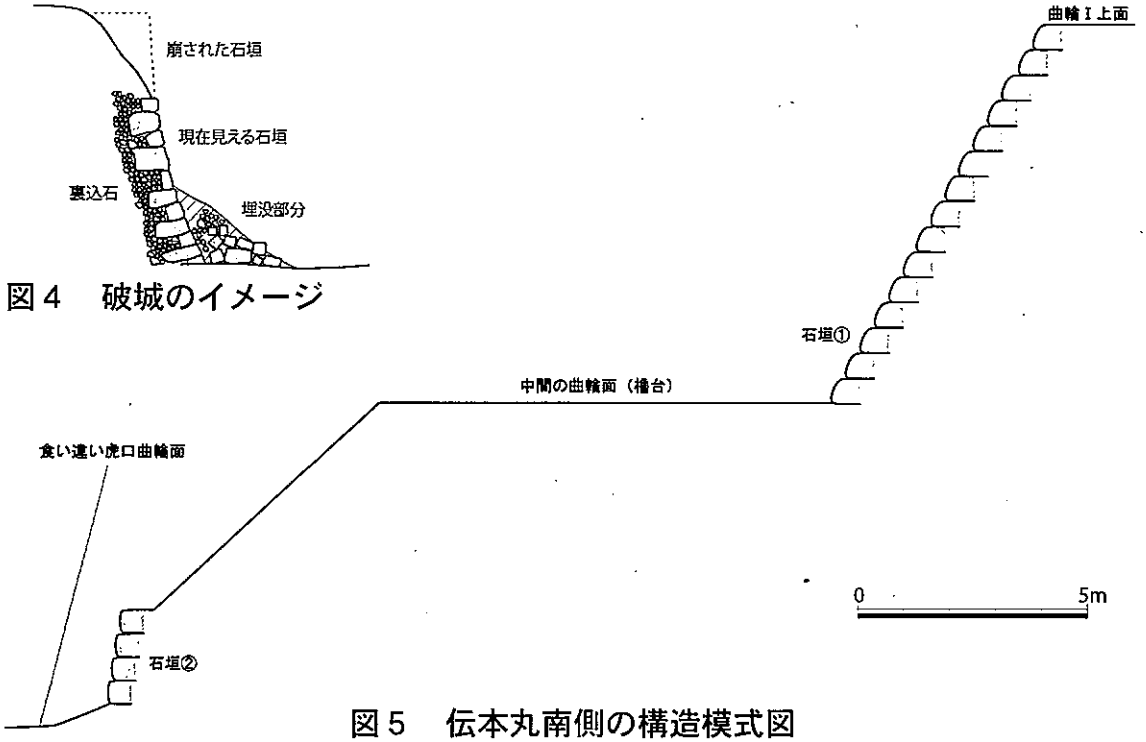


図５　伝本丸南側の構造模式図

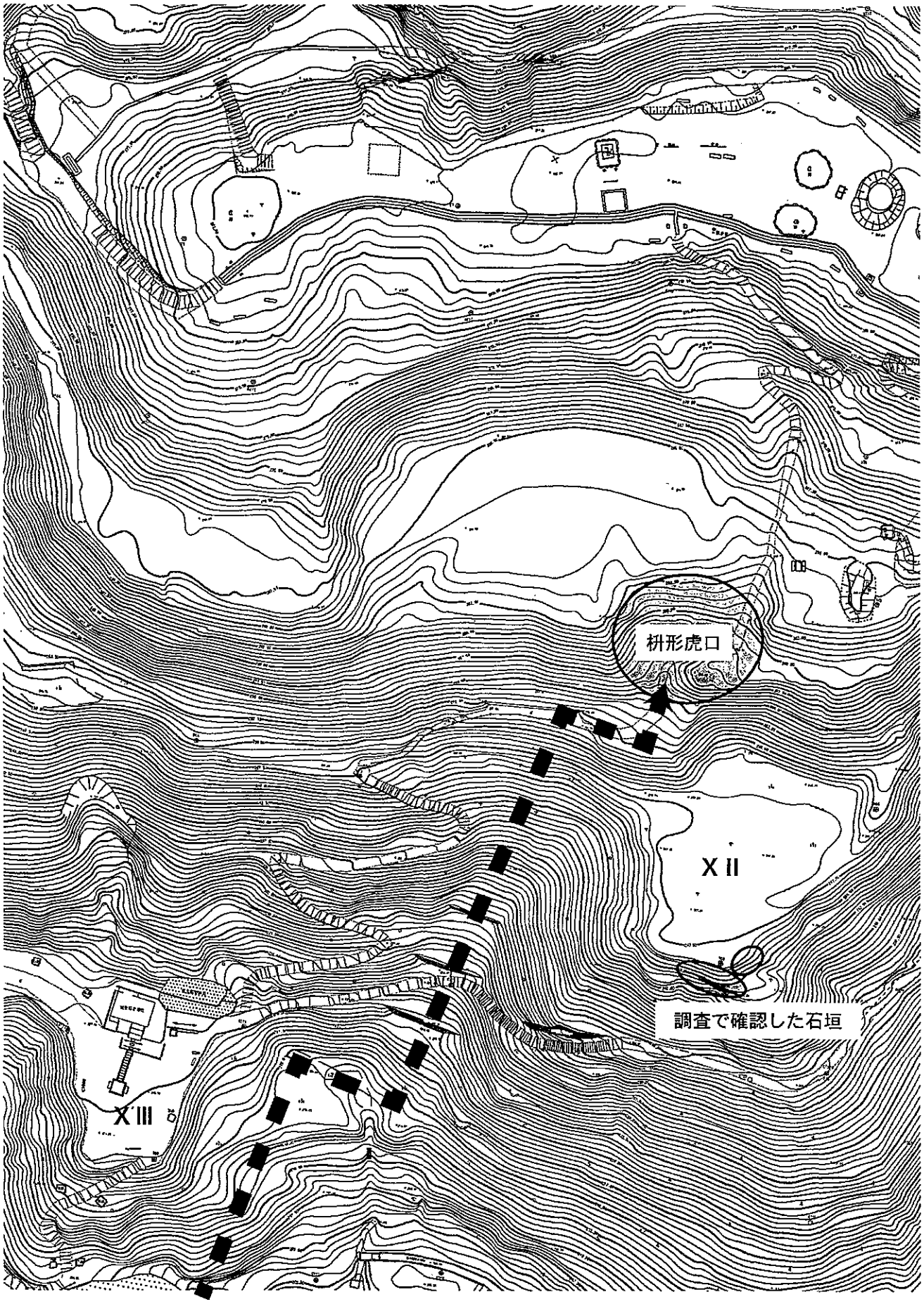


図６　発掘調査成果から推定した大手道

0　50m

甲賀市市制施行10周年記念あいこうか岡山城プロジェクト

水口岡山城跡　城郭歴史フォーラム
水口岡山城と豊臣政権・近江の山城　資料集

平成26年11月16日発行

編集発行
甲賀市教育委員会
滋賀県甲賀市甲南町野田810
甲賀市教育委員会事務局歴史文化財課